

冬を越す生物

■同じ大きさの個体で集まるカワザンショウガイの仲間

気温が下がり、生物は冬越しに入っている。干潟の石の下を観察すると、様々な生物の冬越しの様子が観察できる。アシハラガニやケフサイソガニ、トビムシやフナムシなど様々な生物を観察した。Fig.1・2は石の下に集まって冬を越すカワザンショウガイの仲間である。100%ではないが、大きさが近い個体で集まる傾向があるように思われる。大きさが近いということは、集まっている個体の世代は同一であると考えられる。



(Fig.1 冬を越すカワザンショウガイの仲間 目盛りは1mm)



(Fig.2 Fig.1とは別のカワザンショウガイの仲間)



(Fig.3 ソトオリガイ)

石の下で、水管を伸ばしたソトオリガイを観察した (Fig.3)。水管の先に溝が形成されており、潮が満ちた際には水の出入りが行われていることが推察される。